

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年12月3日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3871100255
事業所名	グループホーム 憩の郷
(ユニット名)	1F
記入者(管理者)	
氏名	富田 功子
自己評価作成日	H. 30 年 9月 28日

<p>【事業所理念】 ・目配り・気配り・心配り (具体的方針) 1. 明るい雰囲気作りに努めます。 2. やさしい言葉使いや態度で接します。 3. 職員は相手の気持ちを思い計る余裕を持って接します。 4. 「手は出しすぎず、目は離さず」自立の気持ちを大切にします。 5. 職員は介護・援助技術の研鑽に努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者主体の個別計画を立てるため、本人はもとより家族の面会時にも積極的にに関わり、利用者や家族の思いに沿った具体的なケアプランを立てるようになった。職員が利用者に関わるうえで、分かりやすいケアプランになったと思います。 備蓄リストや管理ノートはまだ作っていないが、水や食料等の備蓄を少しずつ増やしています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 旧北条市で開設17年目を迎えた海の近くにある事業所である。利用者の自立の気持ちを大切に、自己決定できる機会を多く作り、食事の材料の買い物など利用者と一緒にしている。事業所に地域の方からの新鮮な野菜の差し入れが届き、利用者とメニューを相談して決めることもある。開設当初から勤務している職員は、同じ現場で長く働いてきた元代表者の管理者にも相談しやすいと、働きやすさを感じており良好なチームワークが構築できている。今後さらに地域との関わりを深めていきたいとの思いがあり、今後の取組みが期待される事業所である。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	生活歴や趣味など、入居時や面会時に家族に聞いたり、本人が生活する中で希望を聞く等、努めている。	○	/	○	入居前に家族や利用者から知り得た情報に加えて、日常生活の関わりの中で利用者の希望や意向を汲み取り、記録して職員全員で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ミーティング等話し合いの場で意見を出し、みんなで気付いた事を話し合い検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られるご家族さんとは話が出来るが、なかなか来られない人とは出来ていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	気が付いたことや提案は連絡ノートに記録し、共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	他のスタッフから聞いたことなどは出来るだけ自分でも確認するよう心掛けている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方を入所時や面会時に聞いたり、サマリー等を読み把握に努めている。	/	/	○	入居前の自宅訪問や、家族や利用していた事業所から情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方などを把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	スタッフで気付いたことなどは必ず申し送りを話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安定になった時の状況を職員同士で共有し、その後のケアに活かしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	いつもと違う感じの場合、常に何が原因なのか考え傾聴するようにしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	気が付いたことは生活記録に記入して日々の変化や違いに気をつけている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の意思を尊重し、ミーティング等で話し合っている。	/	/	○	利用者の意向を大切にして、家族や職員と話し合っ利用者や馴染みの生活やこだわりを可能な限り継続できるように取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	◎	気付いたらその都度職員間で検討し対処するようにしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンスで話し合い、課題を明らかにしケアプランに活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	充実した生活を送っていただけるよう、職員でアイデアを出し合っているが、思いを伝えられない利用者には難しい場合もある。	/	/	/	利用者や家族の意向、職員や関係者の意見・アイデアが反映された介護計画をユニット毎の計画作成担当者が作成し、管理者が確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	面会に来られた時などに思いや意見を聞くようにし、月一回のカンファレンスで本人の希望に沿うよう反映している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	出来る限り要望を引き出し意向に沿うようなプランを考えるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ほとんどが職員の援助内容となっている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスで話し合い共有し、職員はいつでも見れるところに保管している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画を把握し理解するように努めているが、介護計画のサービス内容が毎日実施できているか、日々の記録と連動して確認できるよう記入形式を変更するなどの工夫が望まれる。利用者の日々の言葉や表情などは、個別日誌に記録している。利用者一人ひとりの職員の気づきやアイデア等は、共有ノートに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個々のサービス内容が一目で分かる様な一覧表を作り、毎日それに沿ったケアを行うようにしている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別日誌に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	◎	気づきやアイデア等は共有ノートに記録し共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティングで話し合い、見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は、利用者の状況に応じ3か月～6か月で見直している。毎月利用者の現状確認を行い、ミーティングで課題を検討している。利用者の状態に変化があった場合は、現状に合った介護計画の見直しに努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティング時に現状確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	利用者の現状に合わせて話し合い、新たな計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を開催しているが、緊急要件がある場合は現状の職員と話し合い検討し、全職員が共有している。	/	/	○	毎月1回ユニット会を行い、ユニット毎に職員全員で利用者についての話し合いや課題を検討している。必要時にはその日に勤務している職員で話し合いを行い、記録に残して参加していない職員にも情報が伝達できるようにしている。参加できない職員には、議事録を回覧することにより共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	活発な意見交換ができる雰囲気であり、またユニットリーダーがそのように努力している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	可能な限り全職員が参加できるよう開催日時を考えている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	話し合われた内容を記録し、参加できなかった職員に重要事項は申し送りし、内容記録も確認してもらうようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝言ノートに記入し、確認のサインを書くようにしている。	/	/	◎	職員間の伝達事項については口頭で伝えたり、伝達ノートに記入し回覧することにより確認するなど、伝達漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	職員同士で朝夕の申し送りをし、重要な情報は生活記録に赤ペンを使用して目立つように記入している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	◎	散歩や買い物や人形作りなど叶える努力をしている。訴えがあれば出来る限り叶えられるよう職員同士で協力している。	/	/	/	朝食は利用者それぞれの起床時間に合わせ、おやつは数種類の中から選べるようにするなど、日常生活の中で利用者が選択できる機会を作っている。職員は常に笑顔で話しかけるよう努め、利用者が得意なことを楽しんで取り組んでもらえるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	着替えをする服やおやつ等を選んでもらったり、あまり話すことが出来ない利用者には声掛けし、うなずき具合などで希望を読み取る努力をしている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	◎	個々の利用者の普段の行動をよく観察し、また会話を多く持ち、傾聴しながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を大切に、時間の許す限り希望に沿うよう取り組んでいる。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	笑顔で話し掛け、聞いてほしい話を傾聴している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や顔色を気にしながら、本人の思いを汲み支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ミーティング時に言葉掛けや態度について話し合い、利用者の尊厳や誇りを意識するよう努めている。	◎	○	○	利用者の人権や尊厳について学び、職員同士で話し合っ利用者がか不快な気持ちにならないよう配慮した声かけに努めている。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、必ずノックをしてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげなく言葉掛けを行うよう気をつけているが、慣れてくるといついプライバシーに配慮できていない言葉がけや対応をしてしまうことがある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	オムツ交換や清拭時等は居室の戸を閉め、声掛けをしながら行うようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	部屋に入るときはノックをしてから戸を開けるようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	ミーティングで勉強しながら理解し遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	買い物や洗濯物干しなど出来る利用者には手伝っていただき、感謝の言葉を伝える様にしている。	/	/	/	職員は利用者の性格や関係性を把握して、トラブルが未然に防げるように配慮している。食事の時間になると利用者同士が声をかけ合って食堂に移動したり、仲良くソファで談笑する場面が見られるなど、職員は利用者が和やかな雰囲気の中で過ごせることを常に意識し支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の声掛けが出来ていて、助け合っている。支え合う大切さは理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	◎	話の合う合わない人同士の席などに気をつけている。孤立しがちな利用者にはレクリエーション等に誘い、他の利用者といっしょに過ごせるよう支援している。利用者同士が支え合っている場面が良く見られ、それを見守っている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士のトラブル時は話し合いの場を持ち中に入り支援している。落ち着くまで職員が見守り助言する。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	サマリーを見たり、本人から聞き出して把握できるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入所してある程度の期間が経つと情報収集が出来、把握している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの散髪屋や以前住んでいた場所やお墓詣りにお連れしたり、出来る利用者には支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	日中はいつでも面会できるようしている。家族や知人が訪れた時は居室でゆっくり会話ができるように椅子やお茶をお出ししている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	天気の良い日など庭に出て日光浴や散歩・花の手入れ等していただいている。また、日々の買い物にも同行していただいている。	◎	○	○	重度の利用者も含め、屋外に出て外気浴や気分転換ができる機会をつくっているが、公用車を新調したことでさらに利用者が出かけやすくなった。また、利用者の希望に応じて外食することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の施設の夏祭り等には出かけているが、ボランティア等の協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調を見て天気の良い日に戸外に出れるよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	年に何度か買い物や外食が出来るよう支援している。利用者といっしょに外出をくださる家族もいる。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	行動・心理症状については理解し、状態の変化の要因を探り職員間で共有しながら取り除くケアを行っている。	/	/	/	利用者の意思を尊重しながら、利用者のペースに合わせることに取り組んでもらえるよう職員は見守りに徹し、利用者が残存能力を活かせることにより自信につながるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ミーティングで勉強会を行い理解している。現状維持を意識して日々努めているが、なかなか思うようにいかない場合もある。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	手伝うのは簡単だが、時間を掛け声掛けをしながらして頂いている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者一人ひとりの性格や生活歴などの把握に努めている。	/	/	/	できそうなことや得意なことを見極め、畑作業や日常のお手伝いなど役割を持ってもらい、張り合いや楽しみにつながるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常的にその方に合った楽しみ事や役割・出番があるよう、出来そうなことを積極的に勧めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域との交流自体少なく、特に利用者が地域の中で楽しめることは少ない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個人の好みを把握し、希望は優先している。自分で選んだものを着て頂いているが、あまり季節外れな時にはアドバイスする等している。	/	/	/	利用者が季節や気温にそぐわない服装をしていても、プライドを大切にせずさりげない声かけを徹底するなど、配慮した対応に努めている。重度の利用者も好みの服装でその人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	希望がある利用者については出来るだけ好みを優先するが、分からない利用者が多いため、似合うように選んでいる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考え、アドバイスし支援している。又は、職員が思い図って支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ある程度TPOに合わせ楽しめるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	概ねは気付いたらさりげなくカバーするよう努力している。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望される方はなじみの理美容店にお連れしている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	出来るだけ本人の好みに沿うような服装を考え支援している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	栄養を摂るということだけではなく、一連のプロセスの大切さを理解している。	/	/	/	食材の買い出しや台拭き、食器並べなど作業の一部を利用者と一緒に行っている。近隣の方が収穫した野菜や事業所で作った野菜など旬の食材を普段から献立に取り入れており、食器類は利用者それぞれが使いやすいものを使用している。職員は食事介助をしながら利用者と同じテーブルで食事をしており、和やかな食事の時間を共有している。重度な状態でも、献立の話をして調理の音や匂いを感じられるよう工夫している。献立はユニット毎に職員が利用者の栄養バランスを考慮し作成しており、献立ノートに記入して職員間で見直しを含め話し合いをするなど確認している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来そうな事はなるべく一緒に行っている。食材の買い出しを利用者と一緒に行っている。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝って頂く度、「助かった！」又、丁寧に出来たこと等、労いの声掛けをしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ほぼ把握できているつもりである。又、皆で共有するようにしている。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者の好みを考え、旬の食材を使用し季節感を感じて頂いている。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	消化の良い悪いを考えつつ、調理方法を工夫している。又、彩りにも気を配り盛り付けをしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	自分の物を持って来ている利用者は使用している。又、状態に合った箸やスプーンを使ってもらっている(使いやすい物)	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員は常に利用者全員を見守りながら、一緒に食事をし、一人ひとりに合わせたサポートをしている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングから調理をする様子がよく見え、においや配膳状況を通して声掛けや会話をしている。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特別な記入シートはないが概ね把握は出来ている。特に状態の悪い利用者は、日誌等に記入されている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	皆で共有し、栄養補助食を使用したり、摂取出来やすい物を提供している。水分も回数を多くしたり、好みの飲み物で摂り易いように工夫している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	メニューが重ならないように気を付け、献立のバランスも考えている。献立表を確認しチェックしている。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食洗機での乾燥やまな板の消毒、食材に使用できるアルコール等使用し、常に気を付けている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科と連携してアドバイスをを受けたり勉強している。	/	/	/	各居室の洗面台で利用者それぞれの口腔ケアを行い、口腔内の状況を把握している。利用者に自分で歯磨きやうがいをしてもらいながら、職員は口腔内の清潔が保てるよう状態を毎日確認し、異常時は訪問歯科医の受診につなげるなど支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	大まかな状況は把握している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	教えていただいた事は出来るだけ実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	付添い、見守り及び介助し、入れ歯洗浄剤は職員がつけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	食後に歯磨きの声掛けや見守りをし、なるべく自分でしていただき、出来ないところは介助している。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	利用者の訴えや気付きがあれば上司と相談し、医師の診療を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	内部研修などで理解を深めている。	/	/	/	身体状態により常時おむつの利用者もいるが、利用者の希望で夜間のみポータブルトイレを使用したり、パンツやパッド類などの必要性について話し合い利用者の状況に合わせて対応するなど、安易におむつに頼り過ぎない支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	排便の大切さは勉強し、食事や水分、運動、歩行等、気を付けるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録により、おおよその排泄パターンは把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	都度、個々の状態に合わせ見直し対応をしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ミーティングや気付いたとき、皆で相談し検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のパターンを把握し、時間を見ながら声掛けや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	ほぼ介護側(スタッフ)が本人に合ったものを選んでる。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	出来るだけ布パンツを使用できるよう協力している。日中と夜間の使い分けもしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	繊維の多い食材の使用、水分摂取、運動への働きかけ、腹部マッサージなどを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	一応決めてはいるが、入りたい時、拒否する時、臨機応変な対応をしている。	◎	/	○	基本的に週2回入浴となっているが、利用者の要望があれば柔軟に対応している。朝の一番風呂など、時間帯も利用者の希望に沿えるよう臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯の温度や入浴時間は声掛けにより意向を聞いている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	利用者一人一人の力量を把握し、出来ることはしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	日を変えたり時間をずらすなど考慮している。声掛けの仕方でも工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	当日のバイタルの結果やその時の体調を見て入浴を勧めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の変化はあるが、ほぼ把握している。	/	/	/	1日の生活リズムを考慮しながら日中の活動量を増やすなど工夫し、薬剤に頼りすぎない支援に努めている。入居前から薬剤を服用している利用者もいるが、心身状態を主治医と相談しながら極力薬剤を減らすよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	排泄の状態を観察したり、日中の起床時間・動き等の兼ね合いはどうか探っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	主治医と相談しながら、薬は控えるよう努力している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼夜逆転にならない程度に自由に休んでいただいている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	要望があれば支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	出来ない人はしていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	気兼ねなく話ができるよう気遣っている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に貼る等して保管している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に都合の良い時間帯などを聞くなどして、協力していただいている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	お金を持つことで安心される方には持っていたが、紛失時の責任はとれないので、管理出来る方のみ持っていた。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	ホームの買い物や利用者の衣類等、買物に出かけるときは、頻りに利用者に同伴してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に協力や働きかけは行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族との相談で希望に応じている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族に理解を得ている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳をつけ、毎月確認し、出納帳コピーに領収書を添付し家族へ送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族の状況に合わせ、困りごとや要請に出来る限りの支援をしている。(緊急時免許のない家族の送迎や外出の同行、入院手続き等)	◎	/	◎	入居前から行きつけの散髪屋に職員が同行したり、葬儀やお墓参り、病院への受診など、家族が付き添えない場合は職員が対応するなど、状況やニーズに合わせ柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植え、ベンチを置いて明るい雰囲気になるよう工夫している。	◎	○	○	玄関周辺には花を植えるなど、明るく和やかで入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	行事の後しばらくは利用者といっしょに作った飾り付けをそのまま飾り、時々話題にして利用者と会話を楽しんだりする。	◎	○	○	リビングからは庭の家庭菜園の様子を眺めることができる。本や新聞などは自由に手に取ることができ、テーブルやソファなど思い思いの場所でくつろげるようになっている。掃除が行き届き清潔感が漂っている。新聞に掲載された紅葉の写真を壁に貼ったり、ひな祭りや七夕の飾りつけをするなど、季節感が感じられるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除はしている。光はブラインド等で直接当たらないよう気遣っている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	お正月・ひな祭り・七夕等、時季に応じた行事、飾り付けをしている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う同士での席をある程度決めてはいるが、どこに座ろうがOK。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや脱衣所は戸を閉め開けるときは外から見えないよう気遣っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人、家族の思いで持ち込み自由にしていただいている。	◎	/	◎	居室に家具や小物など馴染みのものや仏壇を持ち込むなど、利用者にとって居心地良く過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	居室が分かりにくい方はドアに目印を掛け、お風呂やトイレにはプレートを掛けている。	/	/	/	利用者が衣類を自分で片付けたり整理しやすいように、収納引き出しに分類テープを貼っている。また、時計を利用者の目線に合わせて設置するなど配慮し、自立した生活につながるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	×	不安や混乱を招くものを思い当たらない。あれば対処する。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は自由に取れるところに置いてある。管理出来る方は、危険のない程度に裁縫道具や趣味の品を居室に置かれている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	研修等により弊害は理解している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関等出入口は施錠しておらず自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵をかけることを望む家族はいない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	基本鍵は掛けていない。ベルが鳴れば付き添うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	サマリーや診療情報提供表・経過記録にて把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	特に入浴時などよく観察し、気になる事は日誌に書き申し送りをしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	気になることがあれば、看護師に相談し受診や往診で重度化を防止している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医に受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	希望に沿う形を取っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	報告する必要があるれば必ず行き、急がない場合は面会の際に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時必ず職員が付添い、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医や看護師、相談員と連携し、また頻りに利用者を見舞うよう心掛けている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	些細なことでも相談できる関係性は出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気になる事があれば相談できるような状況を作っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医療機関に24時間いつでも相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化が見られたとき、看護師や主治医に相談し、支持を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬内容のファイルを作り、常に確認出来るようにしており、注意すべき事項は目立つようにしるし等をしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬については工夫したり注意している。(名前・日付の確認等)				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬と状態の兼ね合いは観察し、変化があれば日報に記入し共有している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	常に観察し、気になる事は看護師や主治医に相談している。				

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	家族と話し合い、意向を確認しながら方針を共有している。				利用者や家族の希望に沿って今までに多くの看取り支援を行っている。看取りを行うにあたり、主治医や看護師、職員が、利用者や家族の思いや意向を聞いて話し合い、方針を共有し穏やかな終末期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	管理者と家族で話し合いをし、職員に伝えて共有を図っている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	経験の少ない職員の不安を取り除くよう指示や協力を行っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族と話し合いを行い理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や主治医を交え話し合い、主治医の指示を仰ぎながら支援していく体制にしている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の話を傾聴・共感し心理的支援を行っている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	勉強会を開いたり、時期が来ると再度確認している。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	訓練はしていないが、マニュアルがあり勉強している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	TVや新聞・インターネットなどで情報収集している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集し、感染対策を行っている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に、マスクや消毒液を準備し、来訪者に利用してもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には快く応対し、日々の状況を報告している。				家族には行事に参加してもらえるよう声かけしているが、決まった行事に限られ参加者も固定化しているため、今後は他の行事でも参加が得られるよう日程調整するなど工夫した支援に努めて欲しい。来訪する機会が少ない家族等には、毎月利用者の様子を知らせる便りと写真を送付したり、随時電話連絡を行い近況を伝えている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、便りやホームページ等で報告している。家族の面会時には声かけに努め、要望等を聞いたり利用者の日頃の様子を伝えたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも自由に来ていただき、お茶をお出しし、居室やリビングでゆっくり過ごしていただいている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	敬老会には参加していただくよう声掛けをしているが、その他には積極的な声掛けは出来ない。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月状況報告と写真を送っている。又、何かあれば電話で報告している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	毎月お便りにて報告し、また、面会時に具体的に話をしている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所時や面会時に話を聞くことによって、必要であれば説明や働きかけ、支援をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお便りやホームページなどで報告している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会・敬老会で家族同士が話し合う機会はある。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて報告し、対応策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に声掛けし、要望や気がかりなことが無いかな尋ねている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には利用契約書を読み上げながら説明を行い、分からない事があればいつでも質問して頂くよう伝えている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については入居時に利用契約書により説明を行っている。また、退去時には退去先へのサマリー等の提供を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には家族に説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	設立段階に地域の人への説明はしなかった。	/	◎	/	調査当日は玄関先に地域の方からの野菜の差し入れが届くなど、日常的な交流があるが、地域のイベントにはあまり参加ができていないため、今後は行事等にも積極的に参加し、地域との関わりを深めるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	散歩のときなどは地域の人とあいさつをするが、積極的に自治会への参加はしていない。祭りや近くの施設の夏祭り等への参加はしている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	変わらない	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄りたり遊びに来たりしている。	×	関係ない方が来られることはない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽な声掛けは常にしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	していない。すべて職員が支援している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの店へ買い物に行ったり、行事に参加したり、公園で気分転換出来るよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	機会を見つけて協力をさせていただくよう働きかけをしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが家族代表・地域の方はほぼ毎回出席していただいている。	×	/	△	運営推進会議には家族や民生委員、区長、市や地域包括支援センター職員も参加しているが、利用者の参加がないため、今後は参加できるよう努めて欲しい。事業所の状況報告や評価の取組みの報告のほか、参加メンバーからも意見や提案が出されており、職員会議等で検討し運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	サービスの実績や状況報告は詳しく分かる様に毎回している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	取り組んだこと、活かしたことの報告をしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたりはしていないが、出席しやすい日程にはしている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	1階玄関に置き、いつでも誰でも見れるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念にはなっていない。より良い介護をするための理念を掲げている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各階の玄関に掲示し、職員や利用者、面会に来られた家族には見えるようにしているが、地域の人たちには発信していない。	×	×		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	把握に努めている。研修も受けるように勧め、費用も負担している。				事業所と会社の事務所が隣接しており、代表者は気軽に行き来し調査時は帰宅願望のある利用者の対応をしていた。代表者は日頃から職員や利用者に関わる機会が多く、事業所のことをよく理解しており、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ほぼ毎月勉強会を開きスキルアップに繋げている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	把握に努めているが出来ていない所もある。年一回の昇給や賞与や手当など、出来る限り向上心を持てるよう考えている。就業はほぼ定時に終わるようにしている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者を地区のサービス調整会や地域密着型連絡会議に出席させ、勉強会等の交流する機会を作っている。職員は外部研修等により同業者との交流を図る機会を設けている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来るだけ話や要望を聞くようにしており、年二回の親睦会を開いている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会で取り上げたり、都度話し合っている。				虐待や不適切な言動・ケアについて勉強会で学び、職員全員が虐待防止の徹底について理解し、発見時の対応方法や手順等についても共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者や職員と多く関わることに努め、ケアについて話す機会を作っている。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアに気付いた場合、上司に伝え、みんなで話し合い共有するようにしている。			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスや不満を言いやすい状況を作り、話を傾聴している。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	年2回以上身体拘束や虐待についての社内研修をしている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	「身体的拘束等適正化のための指針」を作成し全職員に周知している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望があっても、拘束の弊害を説明し、対応策を話し、理解してもらうようにしている。				

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	職員はあまり学ぶ機会がないが、成年後見制度についての本を用意し、いつでも誰でも読めるようにしている。研修があれば参加できる体制を整えている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	あまりそのようなケースはない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターとの連携体制もできており、成年後見制度を利用している方もおられる。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、各階詰所に配置している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日本赤十字社の救急法講習を順次受講している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を速やかに作成し、職員間で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	普段より危険を感じたらその都度話し合うようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは各階詰所に配置し、苦情があった場合は適宜対応方法について検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	家族には苦情がある場合は言っていたか又は苦情受付ポストを利用していただくよう伝えているが、苦情を聞くことはない。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	今のところ苦情がないので回答する機会はないが、あった場合はサービス改善に向け話し合いを設けたいと思う。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	それぞれ担当者を決め、それ以外の職員も日頃から利用者の話を聞くよう心掛けている。その中から聞いた要望や苦情は管理者へ相談している。	/	/	◎	利用者は日常的に意見や要望を伝えており、職員も利用者のサインに気付くことができるよう心がけている。家族には相談窓口での対応や面会時などに職員から声かけを行い、要望等を把握するよう努めている。管理者は普段から職員と一緒に利用者に関わっており、職員は相談しやすい環境で何でも気軽に話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	重要事項説明書に相談窓口を明記しており、ホーム内にも相談・苦情受付boxを設置している。ケアプラン送付時に記入用紙を同封し、何かあればケアプランと一緒に返送して頂くようにしている。	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初以外で適宜に情報提供は行っていないが、ホーム玄関に重要事項説明書を置いており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場に行き、職員と話す機会を作り、意見や要望・提案を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	出来るだけ現場に足を運び、利用者と一緒に過ごすと共に職員の意見を聞き、個々に合ったより良い支援について検討している。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回、全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議で評価内容や目標達成計画について報告しているが、家族や地域の方の理解が得られていないため、今後はわかりやすい説明など工夫するほか、取組みのモニターも積極的に担ってもらい、運営に活かせるようになることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価は仕事に取り組む姿勢や介護のあり方について振り返る機会になっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告し、玄関にも掲示している。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	ミーティングで目標達成計画の取り組みの成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルを作成し、各階事務所に置きいつでも見れるようにしている。	/	/	/	様々な想定で避難訓練を行っているが、地域との合同訓練を実施するまでには至っていないため、地域の防災訓練への参加や地域の方にも事業所の避難訓練に参加してもらうなど、緊急災害時の協力体制の整備に努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際、夜間に避難訓練は行っていないが、昼間に夜間を想定しての訓練はしている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は外部に委託し行っている。避難経路は目に付くよう各階内の壁に張っている。非常用食料等は現在順次増やし、点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近くに消防署があり、連携は出来ている。北条交番より警察官に来ていただき、防犯について話し合った。隣家に火災時協力をお願いし、二次通報で連絡が行くよう電話登録している。しかし地域住民と合同の訓練はしていない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議では地域の方に情報を発信しているが、それ以外での活動はしていない。	/	/	/	地域の高齢者や家族から相談があれば気軽に対応しているが、相談支援について地域に浸透していない感があるため、今後は事業所のPRを行うなど広報等にも努めて欲しい。市や地域包括支援センターと連携を図り、イベント等の開催や他の事業所の行事に積極的に参加し交流に努めるなど、協力体制は構築されている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば対応している。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	研修事業の実習の受け入れには協力しているが、ボランティアの養成の受け入れはしていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センター主催のサービス調整会に出席し、他の事業所との連携は取れている。地域の施設のイベント等に参加させてもらっている。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年12月3日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	6名	

※事業所記入

事業所番号	3871100255
事業所名 (ユニット名)	グループホーム 憩の郷 2F
記入者(管理者) 氏名	富田 功子
自己評価作成日	H. 30 年 9 月 28日

<p>【事業所理念】 ・目配り・気配り・心配り (具体的方針) 1. 明るい雰囲気作りに努めます。 2. やさしい言葉使いや態度で接します。 3. 職員は相手の気持ちを思い計る余裕を持って接します。 4. 「手は出しすぎず、目は離さず」自立の気持ちを大切にします。 5. 職員は介護・援助技術の研鑽に努めます。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 利用者主体の個別計画を立てるため、本人はもとより家族の面会時にも積極的にに関わり、利用者や家族の思いに沿った具体的なケアプランを立てるようになった。職員が利用者に関わるうえで、分かりやすいケアプランになったと思います。 備蓄リストや管理ノートはまだ作っていないが、水や食料等の備蓄を少しずつ増やしています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 旧北条市で開設17年目を迎えた海の近くにある事業所である。利用者の自立の気持ちを大切に、自己決定できる機会を多く作り、食事の材料の買い物など利用者と一緒に行っている。事業所に地域の方からの新鮮な野菜の差し入れが届き、利用者とメニューを相談して決めることもある。開設当初から勤務している職員は、同じ現場で長く働いてきた元代表者の管理者にも相談しやすいと、働きやすさを感じており良好なチームワークが構築できている。今後さらに地域との関わりを深めていきたいとの思いがあり、今後の取組みが期待される事業所である。</p>
---	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	利用者個々の希望を聞いたときは管理者や職員で相談し検討している。	○	/	○	入居前に家族や利用者から知り得た情報に加えて、日常生活の関わりの中で利用者の希望や意向を汲み取り、記録して職員全員で共有している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	ミーティング等話し合いの場で意見を出し、みんなで検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られるご家族さんとは話が出来るが、なかなか来られない人とは出来ていない。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	日報や気づいたことを連絡ノートに記入し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	利用者の些細な言葉や顔色等、気にかけている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	出来る限りの情報収集に努めているが、利用者をよく知る方の情報が少ないので、入居時や面会時に家族から聞いている。	/	/	○	入居前の自宅訪問や、家族や利用していた事業所から情報を得て生活歴や馴染みの暮らし方などを把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	スタッフで気付いたことなど話し合い、現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々、ご利用者の変化などを観察するように心掛けている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安定になっているとき何が原因なのか考えて相談している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	気が付いたことは生活記録に記入して日々の変化や違いに気をつけ、申し送りや連絡ノートで共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	利用者の意思を尊重し、ミーティング等で話し合っている。	/	/	○	利用者の意向を大切にして、家族や職員と話し合っ利用者や馴染みの生活やこだわりを可能な限り継続できるように取り組んでいる。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ミーティング等で必要な支援を検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	意見の言えない利用者は職員が様子を見、模索しながら考えている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	充実した生活を送っていただけるよう、ミーティングで話し合い、ケアプランに反映させている。	/	/	/	利用者や家族の意向、職員や関係者の意見・アイデアが反映された介護計画をユニット毎の計画作成担当者が作成し、管理者が確認している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	月一回のカンファレンスで職員間での話し合いはしているが、ご家族と話し合うことは出来ない。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	×	出来る限り要望を引き出し意向に沿うようにしてあげたいが、慣れ親しんだ暮らしはなかなか難しいのが現状である。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	ご家族と外出をされる利用者もいるが少ない。地域のお祭りや敬老会の行事等は参加していただけている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	カンファレンスで話し合い共有し、職員はいつでも見れるところに保管している。	/	/	○	利用者一人ひとりの介護計画を把握し理解するように努めているが、介護計画のサービス内容が毎日実施できているか、日々の記録と連動して確認できるよう記入形式を変更するなどの工夫が望まれる。利用者の日々の言葉や表情などは、個別日誌に記録している。利用者一人ひとりの職員の気づきやアイデア等は、共有ノートに記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	職員間で状況確認を行い、介護計画に沿った支援をしている。	/	/	△	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	個別日誌に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づきやアイデア等は共有ノートに記録し共有している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	ミーティングで話し合い、見直しを行っている。	/	/	○	介護計画は、利用者の状況に応じ3か月～6か月で見直している。毎月利用者の現状確認を行い、ミーティングで課題を検討している。利用者の状態に変化があった場合は、現状に合った介護計画の見直しに努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	新たな変化が無い場合は、計画期間に応じた確認を行っている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	身体用状況に変化が生じた場合は、家族の意向を聞き、新たな計画を作成しています。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に会議を開催しているが、緊急要件がある場合は現状の職員と話し合い検討し、全職員が共有している。	/	/	○	毎月1回ユニット会を行い、ユニット毎に職員全員で利用者についての話し合いや課題を検討している。必要時にはその日に勤務している職員で話し合いを行い、記録に残して参加していない職員にも情報が伝達できるようにしている。参加できない職員には、議事録を回覧することにより共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	活発な意見交換ができるように全員が努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	可能な限り全職員が参加できるよう開催日時を考えている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	話し合われた内容を記録し、参加できなかった職員は確認するようにしている。	/	/	○	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	伝言ノートに記入し、確認のサインを書くようにしている。	/	/	◎	職員間の伝達事項については口頭で伝えたり、伝達ノートに記入し回覧することにより確認するなど、伝達漏れがないよう努めている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	職員同士で朝夕の申し送りをし、連絡ノートにも記入し、確認した職員はサインを記入している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	外出やレクリエーション等、出来るだけ叶える努力をしている。	/	/	/	朝食は利用者それぞれの起床時間に合わせ、おやつは数種類の中から選べるようにするなど、日常生活の中で利用者が選択できる機会を作っている。職員は常に笑顔で話しかけるよう努め、利用者が得意なことを楽しんで取り組んでもらえるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	出来るだけ着替えをする服を選んでもらったり、おやつやテレビ番組等を選んでいただいている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	利用者との会話を多くし、傾聴しながら支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペースや習慣を大切にしているが、どうしても介助側の都合になってしまうこともたまにある。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	時間がある時は利用者の話を傾聴したり、いっしょにテレビを見ながら会話を楽しんでいる。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	常に利用者の表情を気にしているが、本人の思いや意向が分からない場合は職員都合でしてしまっている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉がけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ミーティング時に言葉掛けや態度について話し合い、利用者の尊厳や誇りを意識するよう努めている。	◎	○	○	利用者の人権や尊厳について学び、職員同士で話し合っ利用者がか不快な気持ちにならないよう配慮した声かけに努めている。居室は利用者のプライベートな空間であることを理解し、必ずノックをしてから入室するようにしている。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	さりげなく言葉掛けを行うよう気をつけている。答えにくそうな確認(便が出たか等)は小声で聞くようにしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	オムツ交換や清拭時等は居室の戸を閉め、排泄時は外から見守る等気を付けている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入るときはノックをしてから戸を開けるようにしている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ミーティング時の勉強会で周知し、遵守している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	買い物や洗濯物干しなど出来る利用者には手伝っていただき、感謝の言葉を伝える様にしている。	/	/	/	職員は利用者の性格や関係性を把握して、トラブルが未然に防げるように配慮している。食事の時間になると利用者同士が声をかけ合っ食堂に移動したり、仲良くソファで談笑する場面が見られるなど、職員は利用者が和やかな雰囲気でご過ごせることを常に意識し支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合っ暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	利用者同士の声掛けで、助け合ったり支え合っている姿がよく見られ、職員は見守っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらっ場面をつくる等)。	○	話の合う合わない人同士の席などに気をつけている。孤立しがちな利用者にはレクリエーション等に誘い、他の利用者といっしょに過ごせるよう支援している。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	利用者同士のトラブル時は話し合いの場を持ち中に入り支援している。落ち着くまで職員が見守り助言する。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	サマリーを見たり、本人から聞き出して把握できるよう努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	ある程度のことは把握しているが、本人に確認出来なかったり家族が協力的でなかったりする場合もあり難しい。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族と電話を希望する方に支援したり、友人に来ていただけたときは、また来ていただけるよう声掛けをしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	日中はいつでも面会できるようしている。家族や知人が訪れた時は居室でゆっくり会話ができるように椅子やお茶をお出ししている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	天気の良い日など庭に出て日光浴したり買い物に同行していただいたりしているが、職員側の都合を優先してしまう場合もある。	◎	○	○	重度の利用者も含め、屋外に出て外気浴や気分転換ができる機会をつくっているが、公用車を新調したことでさらに利用者が出かけやすくなった。また、利用者の希望に応じて外食することもある。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の施設の夏祭り等には出かけているが、ボランティア等の協力は得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調を見て天気の良い日に戸外に出れるよう支援している。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	外出に協力していただける家族はいらっしゃらないが、近くの夏祭りは利用者の席を用意していただき、参加させていただいている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	行動・心理症状については理解しているが、取り除くケアはあまりできていない。	/	/	/	利用者の意思を尊重しながら、利用者のペースに合わせることができることに取り組んでもらえるよう職員は見守りに徹し、利用者が残存能力を活かせることにより自信につながるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	ミーティングで勉強会を行い理解している。現状維持を意識して日々努めているが、なかなか思うようにいかない場合もある。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	理念にも『手は出しすぎず目は離さず』とあり、声掛けて見守りながら、できないところは支援している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	一人ひとりの生活歴や習慣等は把握し共有している。	/	/	/	できそうなことや得意なことを見極め、畑作業や日常のお手伝いなど役割を持ってもらい、張り合いや楽しみにつながるよう支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常的にその方に合った楽しみ事や役割・出番があるよう、出来そうなことを積極的に勧めている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域との交流自体少なく、特に利用者が地域の中で楽しめることは少ない。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	個人の好みを把握し、希望は優先している。利用者や家族から情報を頂き把握に努めている。	/	/	/	利用者が季節や気温にそぐわない服装をしていても、プライドを大切にせずさりげない声かけを徹底するなど、配慮した対応に努めている。重度の利用者も好みの服装でその人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	希望がある利用者については出来るだけ好みを優先するが、分からない利用者が多いため、似合うように選んでいる。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	一緒に考え、アドバイスし支援している。又は、職員が思い図って支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	ある程度TPOに合わせ楽しめるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にせずさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	おおむねは気付いたらカバーで来ているが、さりげなくという行為でないことも多々あり。	◎	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	希望があれば尊重している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	△	重度の方は着せやすく介助し易いものになりがちであるが、その人らしい服を選ぶよう心掛けている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食事は楽しみや季節感を感じる大切なプロセスだと理解している。	/	/	/	食材の買い出しや台拭き、食器並べなど作業の一部を利用者と一緒に行っている。近隣の方が収穫した野菜や事業所で作った野菜など旬の食材を普段から献立に取り入れており、食器類は利用者それぞれが使いやすいものを使用している。職員は食事介助をしながら利用者と同じテーブルで食事をしており、和やかな食事の時間を共有している。重度な状態でも、献立の話をして調理の音や匂いを感じられるよう工夫している。献立はユニット毎に職員が利用者の栄養バランスを考慮し作成しており、献立ノートに記入して職員間で見直しを含め話し合いをするなど確認している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	野菜の皮むぎを手伝っていただいたり、買い物も一人ずつではあるが同行し、買出しに出掛ける時がある。	/	/	◎	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	出来る方は少ないが、していただいたときは労いの言葉を掛けるよう心掛けている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	アレルギーの有無は確認し共有している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	旬の野菜や果物をなるべく取り入れ、甘酒やあんこを利用した菓子等手作りで提供している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせて食事形態の対応をし、彩りや盛り付けにも工夫している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れたものを入居時に持参をお願いしている。	/	/	○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者全員の様子を見ながら職員もいっしょに食事し、声掛けや介助を行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の利用者も出来るだけリビングに出てきていただき、音やにおいを感じていただくようにしている。	◎	/	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	特別な記入シートはないが概ね把握は出来ている。特に状態の悪い利用者は、日誌等に記入されている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食べたいものや飲みたいものを聞いたりしながら、水分の少ない方は出来るだけ声掛けしポカリスエットや栄養補助飲料など、少しでも飲んでいただけるよう努めている。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	主任が、メニューが重ならないよう大まかな献立を考え、担当職員がそれに沿った旬の食材を取り入れた細かいメニューを考え調理している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食洗機での乾燥やまな板の消毒、食材に使用できるアルコール等使用し、常に気を付けている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科と連携してアドバイスをを受けたり勉強している。	/	/	/	各居室の洗面台で利用者それぞれの口腔ケアを行い、口腔内の状況を把握している。利用者に自分で歯磨きやうがいをしてもらいながら、職員は口腔内の清潔が保てるよう状態を毎日確認し、異常時は訪問歯科医の受診につなげるなど支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	出来る限り把握していくよう努力しているが、舌の状態までは把握できない。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	教えていただいた事は出来るだけ実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	付添い、見守り及び介助し、出来ない方は職員が洗浄し入れ歯洗浄剤につけている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	身体状況に合わせ声掛けしたり、磨き直しをしたりしている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	利用者の訴えや気付きがあれば上司と相談し、医師の診療を受けている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレで排泄できるよう声掛けしたり支援している。	/	/	/	身体状態により常時おむつの利用者もいるが、利用者の希望で夜間のみポータブルトイレを使用したり、パンツやパッド類などの必要性について話し合い利用者の状況に合わせて対応するなど、安易におむつに頼り過ぎない支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	食事や水分、運動、歩行等、気を付けるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録により、おおよその排泄パターンは把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	一人ひとりの状態を共有し、時間を見ながらトイレの声掛けや誘導を行っている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	ミーティングや気付いたとき、皆で相談し検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人ひとりのパターンに合わせてたり、様子を見ながら声掛けや話等を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	選べる方は希望の商品を使用していただき、状態変化の都度選んでいたが、大部分の方は職員同士で状態を見ながら話し合い選んでいる。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者に合ったものを使用。日中と夜間の使い分けもしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給の声掛けをしたり、運動や腹部マッサージをし、できるだけ自然排便できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	週二回午前中を基本で入浴していただいているが、その時間に外出する方や拒否する方がいらっしゃる時は、午後に入浴していただいたり、臨機応変な対応をしている。	◎	/	○	基本的に週2回の入浴となっているが、利用者の要望があれば柔軟に対応している。朝の一番風呂など、時間帯も利用者の希望に沿えるよう臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	湯の温度や入浴時間、声掛け、意向等は聞いているが、一人には出来ないのも、そんなにくつろげないかもしれない。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	自分で出来る事はしてもらっている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	原因を相談し、職員同士で協力し、声掛けの仕方を考えたり入浴日を変更したりしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	当日のバイタルの結果やその時の体調を見て入浴を勧めている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	日々の変化はあるが、ほぼ把握している。	/	/	/	1日の生活リズムを考慮しながら日中の活動量を増やすなど工夫し、薬剤に頼りすぎない支援に努めている。入居前から薬剤を服用している利用者もいるが、心身状態を主治医と相談しながら極力薬剤を減らすよう努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	排泄の状態を観察したり、日中の起床時間・動き等の兼ね合いはどうか探っている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	不眠の訴えがあれば、主治医と相談している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	自由に休んでおられるが、昼夜逆転が見られそうときは休息の時間を考えながら援助する。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話の要望があれば支援している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙を書くよう声掛けしても、あまりみなさん希望されない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	詰所の電話を利用していただいているが、話しているときは少し離れて見るようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に飾る等して保管している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	手紙の協力をお願いしていないが、電話の協力はいただいている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社会生活の中で、お金を持つことの大切さは理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	◎	ホームの買い物や利用者の衣類等、買物に出かけるときは、頻りに利用者に同伴してもらっている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	特に協力や働きかけは行っていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	家族と相談しながら支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳をつけ、毎月確認し、出納帳コピーに領収書を添付し家族へ送っている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族の状況に合わせ、困りごとや要請に出来る限りの支援をしている。(緊急時免許のない家族の送迎や外出の同行、入院手続き等)	◎	/	◎	入居前から行きつけの散髪屋に職員が同行したり、葬儀やお墓参り、病院への受診など、家族が付き添えない場合は職員が対応するなど、状況やニーズに合わせ柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植え、ベンチを置いて明るい雰囲気になるよう工夫している。	◎	○	○	玄関周辺には花を植えるなど、明るく和やかで入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節感を感じる空間を心掛けている。	◎	○	○	リビングからは庭の家庭菜園の様子を眺めることができる。本や新聞などは自由に手に取ることができ、テーブルやソファなど思い思いの場所でくつろげるようになっている。掃除が行き届き清潔感が漂っている。新聞に掲載された紅葉の写真を壁に貼ったり、ひな祭りや七夕の飾りつけをするなど、季節感が感じられるよう工夫している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日掃除はしている。光はブラインド等で直接当たらないよう気遣っている。ごみは外に出し溜めないようにしている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	お正月・ひな祭り・七夕等、時季に応じた行事、又は、飾り付けなどに工夫している。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う同士で話されたり、居室でゆっくり寛がれたり、自由にくつろいでいただいている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレや脱衣所は戸を閉め、開けるときは外から見えないよう気遣っている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの物や使い慣れた物を自由に持参していただき、心地よく過ごせるよう家族にも協力していただいている。	◎	/	◎	居室に家具や小物など馴染みのものや仏壇を持ち込むなど、利用者にとって居心地良く過ごせる空間になっている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	車いすの方が多いので、廊下やリビングは車いすが通りやすいよう必要なもの以外は置かないようにしている。トイレや居室はプレートを掛けて分かるようにしている。	/	/	/	利用者が衣類を自分で片付けたり整理しやすいように、収納引き出しに分類テープを貼っている。また、時計を利用者の目線に合わせて設置するなど配慮し、自立した生活につながるよう工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	×	不安や混乱を招くものを思い当たらない。あれば対処する。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	管理出来る方には裁縫道具や本など居室に置いていただいているが、その他の物はさりげなく、という訳にはいかない。必要な時はいつでも用意できるよう準備はしている。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	研修等により弊害は理解している。	◎	◎	◎	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中玄関等出入口は施錠しておらず自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	鍵をかけることを望む家族もいないので家族と話すこともない。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	基本鍵は掛けていない。ベルが鳴れば付き添うようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	サマリーや診療情報提供表・経過記録にて把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	バイタルサインや精神状態は日誌に書き申し送りをしている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や看護師に相談できる状態にしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	かかりつけ医に受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	希望に沿う形を取っている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	報告する必要があるはずに行い、急がない場合は面会の際に報告している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時必ず職員が付添い、情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	主治医や看護師、相談員と連携し、また頻りに利用者を見舞うよう心掛けている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	特別な事を行っている訳ではないが、関係性は出来ている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	気になる事があれば看護師や主治医に相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	協力医療機関に24時間いつでも相談できる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	状態変化が見られたとき、看護師や主治医に相談し、支持を仰いでいる。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	服薬内容のファイルを作り、常に確認出来るようにし、分からないことは薬剤師に相談したりネットで調べたりしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	投薬については工夫したり注意している。(名前・日付の確認等)				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬と状態の兼ね合いは観察し、変化があれば日報に記入し共有している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	常に観察し、気になる事は看護師や主治医に相談している。				

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	家族と話し合い、意向を確認しながら方針を共有している。	/	/	/	利用者や家族の希望に沿って今までに多くの看取り支援を行っている。看取りを行うにあたり、主治医や看護師、職員が、利用者や家族の思いや意向を聞いて話し合い、方針を共有し穏やかな終末期を迎えられるよう支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	管理者と家族で話し合いをし、職員に伝えて共有を図っている。	○	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	経験の少ない職員の不安を取り除くよう指示や協力を行っている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	家族と話し合いを行い理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や主治医を交え話し合い、主治医の指示を仰ぎながら支援していく体制にしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の話を傾聴・共感し心理的支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会を開いたり、時期が来ると再度確認している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	訓練はしていないが、マニュアルがあり勉強している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	TVや新聞・インターネットなどで情報収集している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	情報収集し、感染対策を行っている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に、マスクや消毒液を準備し、来訪者に利用してもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	あまりそこまでの関係は築いていない。				家族には行事に参加してもらえるよう声かけしているが、決まった行事に限られ参加者も固定化しているため、今後は他の行事でも参加が得られるよう日程調整するなど工夫した支援に努めて欲しい。来訪する機会が少ない家族等には、毎月利用者の様子を知らせる便りと写真を送付したり、随時電話連絡を行い近況を伝えている。事業所の運営上のことや職員の異動等については、便りやホームページ等で報告している。家族の面会時には声かけに努め、要望等を聞いたり利用者の日頃の様子を伝えたりしている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	いつでも自由に来ていただいている。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	呼びかけもなくなったり、来てお手伝いしてくれる方も少なくなっている。	○		△	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月状況報告と写真を送っている。又、何かあれば電話で報告している。	◎		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	△	面会時には何か気になることはないか尋ねるが、来られない家族には毎月のお便りのみで一方的になってしまっている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	入所時や面会時に話を聞くことによって、必要であれば説明や働きかけ、支援をしている。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお便りやホームページなどで報告している。	○		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会・敬老会で家族同士が話し合う機会はある。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	リスクについて報告し、対応策を話し合っている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に声掛けし、要望や気がかりなことが無いかな尋ねている。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には利用契約書を読み上げながら説明を行い、分からない事があればいつでも質問して頂くよう伝えている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去については入居時に利用契約書により説明を行っている。また、退去時には退去先へのサマリー等の提供を行っている。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には家族に説明し同意を得ている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	×	設立段階に地域の人への説明はしなかった。	/	◎	/	調査当日は玄関先に地域の方からの野菜の差し入れが届くなど、日常的な交流があるが、地域のイベントにはあまり参加ができていないため、今後は行事等にも積極的に参加し、地域との関わりを深めるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	散歩のときなどは地域の人とあいさつをするが、積極的に自治会への参加はしていない。祭りや近くの施設の夏祭り等への参加はしている。	/	○	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	変わらない	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	関係ない方が来られることはない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	気軽な声掛けは常にしている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	していない。すべて職員が支援している。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	近くの店へ買い物に行ったり、行事に参加したり、公園で気分転換出来るよう支援している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	機会を見つけて協力をさせていただくよう働きかけをしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	利用者の参加はないが家族代表・地域の方はほぼ毎回出席していただいている。	×	/	△	運営推進会議には家族や民生委員、区長、市や地域包括支援センター職員も参加しているが、利用者の参加がないため、今後は参加できるよう努めて欲しい。事業所の状況報告や評価の取組みの報告のほか、参加メンバーからも意見や提案が出されており、職員会議等で検討し運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	サービスの実績や状況報告は詳しく分かる様に毎回している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	取り組んだこと、活かしたことの報告をしている。	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたりはしていないが、出席しやすい日程にはしている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	1階玄関に置き、いつでも誰でも見れるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念にはなっていない。より良い介護をするための理念を掲げている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各階の玄関に掲示し、職員や利用者、面会に来られた家族には見えるようにしているが、地域の人たちには発信していない。	x	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	把握に努めている。研修も受けるように勧め、費用も負担している。	/	/	/	事業所と会社の事務所が隣接しており、代表者は気軽に行き来し調査時は帰宅願望のある利用者の対応をしていた。代表者は日頃から職員や利用者に関わる機会が多く、事業所のことをよく理解しており、職員が働きやすいよう職場環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	ほぼ毎月勉強会を開きスキルアップに繋げている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	把握に努めているが出来ていない所もある。年一回の昇給や賞与や手当など、出来る限り向上心を持てるよう考えている。就業はほぼ定時に終わるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者を地区のサービス調整会や地域密着型連絡会議に出席させ、勉強会等の交流する機会を作っている。職員は外部研修等により同業者との交流を図る機会を設けている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	出来るだけ話や要望を聞くようにしており、年二回の親睦会を開いている。	◎	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	勉強会で取り上げたり、都度話し合っている。	/	/	/	虐待や不適切な言動・ケアについて勉強会で学び、職員全員が虐待防止の徹底について理解し、発見時の対応方法や手順等についても共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	利用者や職員と多く関わることに努め、ケアについて話す機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアに気付いた場合、上司に伝え、みんなで話し合い共有するようにしている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ストレスや不満を言いやすい状況を作り、話を傾聴している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	年2回以上身体拘束や虐待についての社内研修をしている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	「身体的拘束等適正化のための指針」を作成し全職員に周知している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族からの要望があっても、拘束の弊害を説明し、対応策を話し、理解してもらうようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	職員はあまり学ぶ機会がないが、成年後見制度についての本を用意し、いつでも誰でも読めるようにしている。研修があれば参加できる体制を整えている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	あまりそのようなケースはない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センターとの連携体制はできている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	マニュアルを作成し、各階事務所に配置している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	日本赤十字社の救急法講習を順次受講している。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハットや事故報告書を速やかに作成し、職員間で検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	普段より危険を感じたらその都度話し合うようにしている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応マニュアルは各階事務所に配置し、苦情があった場合は上司に報告し対応方法を検討する。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	家族には苦情がある場合は言っていたか又は苦情受付ポストを利用していただくよう伝えているが、今のところ苦情を聞くことはない。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	今のところ苦情がないので回答する機会はないが、あった場合はサービス改善に向け話し合いを設けたいと思う。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	それぞれ担当者を決め、それ以外の職員も日頃から利用者の話を聞くよう心掛けている。その中から聞いた要望や苦情は管理者へ相談している。	/	/	◎	利用者は日常的に意見や要望を伝えており、職員も利用者のサインに気付くことができるよう心がけている。家族には相談窓口での対応や面会時などに職員から声かけを行い、要望等を把握するよう努めている。管理者は普段から職員と一緒に利用者に関わっており、職員は相談しやすい環境で何でも気軽に話し合っている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	重要事項説明書に相談窓口を明記しており、ホーム内にも相談・苦情受付boxを設置している。ケアプラン送付時に記入用紙を同封し、何かあればケアプランと一緒に返送して頂くようにしている。	◎	/	◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約当初以外で適宜に情報提供は行っていないが、ホーム玄関に重要事項説明書を置いており、いつでも閲覧できるようにしている。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	現場に行き、職員と話す機会を作り、意見や要望・提案を聞いている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	出来るだけ現場に足を運び、利用者と一緒に過ごすと共に職員の意見を聞き、個々に合ったより良い支援について検討している。	/	/	◎	

愛媛県グループホーム憩の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年一回ではあるが、全員で自己評価に取り組んでいる。	/	/	/	運営推進会議で評価内容や目標達成計画について報告しているが、家族や地域の方の理解が得られていないため、今後はわかりやすい説明など工夫するほか、取組みのモニターも積極的に担ってもらい、運営に活かせるようになることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	自己評価は仕事に取り組む姿勢や介護のあり方について振り返る機会になっている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議で報告し、玄関にも掲示している。	×	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	ミーティングで目標達成計画の取り組みの成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルを作成し、各階事務所に置きいつでも見れるようにしている。	/	/	/	様々な想定で避難訓練を行っているが、地域との合同訓練を実施するまでには至っていないため、地域の防災訓練への参加や地域の方にも事業所の避難訓練に参加してもらうなど、緊急災害時の協力体制の整備に努めることが望まれる。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	実際、夜間に避難訓練は行っていないが、昼間に夜間を想定しての訓練はしている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備の点検は外部に委託し行っている。避難経路は目に付くよう各階内の壁に張っている。非常用食料等は現在順次増やし、点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	近くに消防署があり、連携は出来ている。北条交番より警察官に来ていただき、防犯について話し合った。隣家に火災時協力をお願いし、二次通報で連絡が行くよう電話登録している。しかし地域住民と合同の訓練はしていない。	×	×	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	行っていない。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議では地域の方に情報を発信しているが、それ以外での活動はしていない。	/	/	/	地域の高齢者や家族から相談があれば気軽に対応しているが、相談支援について地域に浸透していない感があるため、今後は事業所のPRを行うなど広報等にも努めて欲しい。市や地域包括支援センターと連携を図り、イベント等の開催や他の事業所の行事に積極的に参加し交流に努めるなど、協力体制は構築されている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談があれば対応している。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	していない。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	研修事業の実習の受け入れには協力しているが、ボランティアの養成の受け入れはしていない。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	包括支援センター主催のサービス調整会に出席し、他の事業所との連携は取れている。地域の施設のイベント等に参加させてもらっている。	/	/	○	